

地域おこし協力隊通信

第13回

リポーター：森山健吾 隊員



皆さんこんにちは!!
13回目の協力隊通信です。
今回は、5月21日(木)に行われた「まこも」の苗の植え付けについて取り上げていきます。
さて、皆さんは「まこも」をご存知ですか? 私は、潮来に来てからその存在を初めて知りました。名前は聞いたことがある、食べたことがある、等さまざまなと思いますが、実際の栽培の様子を見たことがある人は少ないと思います。今回はそんな栽培現場に行ってきました。

さを知りました。
また、収穫の際これまで廃棄していた「まこも」の若葉を利用した商品開発も道の駅いたこや市と共同で行い、商品化に向けてさまざまな試作品を作っているそうです。潮来の新たな特産品が生まれる日も近いかもしれません。
今後は、除草や追肥等を行いながら、9月下旬から11月中旬にかけて収穫する予定となっています。

「まこも」とは?

イネ科マコモ属・多年草の水生植物。茎の根元が「まこもたけ」という食用部分になる。ほのかな甘みと淡泊な味のため、多種多様な料理に使用え、中華料理などの油との相性がよい。食感は、たけのことアスパラガスの中間。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第52回

水郷の魚たちーダントウボウ(団頭魴)

霞ヶ浦の流入河川で学生たちが魚類調査をしていたときに、見慣れない魚(写真)が投網にかかりました。体はひし形で、大きく側扁している点はヘラブナ(ゲンゴロウブナ)に似ていますが、妙に小顔…。そして、背びれ基底が短く、体色が少し黒ずんでいて、鱗が細かいのが特徴。中国大陸原産の外來コイ科魚類、ダントウボウでした。

個体の散発的な採集記録があるのみでしたが、ここ数年間は見かける機会が増えているようです。

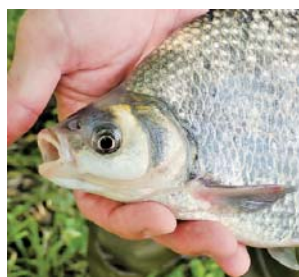
本種による影響はよくわかっていないのですが、もし、今後、霞ヶ浦で大量増殖し個体数が多くなった場合には在来植物群落への影響が懸念されるほか、他の水産有用種や希少種の生息に対して予期できない影響を及ぼす恐れも指摘されています。霞ヶ浦のように大きな湖では早期防除は難しくなりつつありますが、他水系への分布拡大を防ぐための取り組みを急ぐことが求められています。私たちも注視していく予定です。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション
加納 光樹

原産地では食用とされ、盛んに養殖もされています。日本へは1970年代後半に輸入され、いくつかの研究機関で養殖のための飼育試験が行われました。しかしその後、霞ヶ浦に正規ルートで放流された記録は一切なく、侵入経路は不明です。霞ヶ浦では2002年にはじめて確認され、その後、2009年から2017年までは稚魚や成魚を含む7



霞ヶ浦の流入河川で採れたダントウボウ



ダントウボウの顔